

Sr. Christina Marie Trudeau のコスミック教育観

福原 史子*

Cosmic Education through the perspective of Sr. Christina Marie Trudeau

Fumiko FUKUHARA

The purpose of this study is to review Sr. Christina Marie Trudeau's accomplishments and to discuss the ways of exploring the possibility of developing Cosmic Education. Cosmic Education is education for children to learn and know that all things are part of the universe and are connected with each other to form one whole unity. They study the cosmos and identify their own unique places within it and their specific cosmic tasks. This basic philosophy matches the idea of "Career Education" promoted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan. Montessori had organized Cosmic Education in India between 1939 and 1945. Trudeau's research on Montessori's works in India led to her many Cosmic Education Workshops. In addition, she has been the moving force in establishing Montessori teacher education programs at the College of Notre Dame de Namur, CA; Seattle University, WA; Notre Dame Seishin University, Japan; Chaminade University, HI; and Montessori Teacher University, Philippines. Teacher education programs in the Pacific Rim are based on Montessori's work in India placing emphasis on four key points: working with local pioneers, adapting and innovating, beginning training programs, and using the cosmic curriculum from India focusing on the natural environment and using local culture. Recently, "Education for Sustainable Development (ESD)" has been promoting efforts to rethink educational programmes and systems (both methods and contents) that currently support unsustainable societies. At Montessori schools, five-year-olds with inquiring minds can explore and learn about these themes. Through their activities, they learn to know, to do, to be, and to live with others. At other schools, Montessori materials and Cosmic Education can be applied to ESD and also Career Education.

Key words : Montessori Education, Cosmic Education, teacher education program

はじめに

100年前にイタリアの女性医学博士であ

るマリア・モンテッソーリによって始められたモンテッソーリ教育は、世界各地に広がり、ユネスコによると、現在110の国々

キーワード：モンテッソーリ教育、コスミック教育、教師養成プログラム

※ 本学人間生活学部児童学科

に2万以上の Montessori School があるといわれている¹⁾。これまでモンテッソーリとその教育法については世界中の多くの研究者が研究してきており、日本も例外ではない。しかしその多くは彼女の生涯や思想、感覚教育に代表されるモンテッソーリメソッドや、自発的教育原理に関するものである²⁾。コスミック教育に焦点を当てた実践的研究は日本にはまだ少ない。

コスミック教育とは、子どもたちが彼らのレベルで、宇宙全体には統一した計画が存在しており、生物の多様な形態の存在のみならず、地球そのものの発展進化もそれに依存していることを学習し認識することである³⁾。モンテッソーリは晩年インドに渡り、インドの東洋思想から影響を受け宇宙観として具体化していったが、それまで明らかにされていなかったインドにおけるモンテッソーリの研究をしたのが Sr. Christina Marie Trudeau である⁴⁾。筆者のこれまでの日本とアメリカのモンテッソーリ教育の動向に関する研究から、Trudeau の環太平洋地域における本教育発展への寄与がわかっている⁵⁾。特に Schonleber and Richmond⁶⁾ らハワイチームの研究により明らかにされた、コスミック教育理念に基づいて、各々の国や地域の文化的背景に沿ったモンテッソーリ教育を展開するための、「適応」と「変革」という Trudeau の観点は、今日の開発教育や国際理解教育を検討する上でたいへん意義深いと考える。

一方、国連は2005年から2014年までを「持続可能な社会のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) の10年」と定め、2005年にはユネスコを中心に国際実施計画が作成され、日本でも取り組みが始まっている。ESD とは、大量生産・大量消費・大量廃棄による環境悪化や貧困の増大等の弊害を招いた開発を反省

し、将来にわたって、また地球規模の視点においても、あらゆる人々が自然環境等と共生できる持続可能な社会を目指す教育をいう⁷⁾。現在、ESD の学校への導入方法が検討され、教材やプログラム作りが行われているところである。この ESD の理念は地球市民の育成というモンテッソーリ教育におけるコスミック教育の理念と一致するのではないかと考えた。

さらにモンテッソーリは、宇宙を支配している諸法則は子どもにとって興味深く驚くべきものであり、それは諸法則それ自身の中にある事物よりももっと興味深いものであり、宇宙の中での自分自身の役割とは何かを問い始めると述べている⁸⁾。この問いを解決しようとする姿勢は、幼児期からのキャリア教育⁹⁾へも繋がるのではないかと考えた。

具体的に幼稚園においては、年長児の「協同的な学び」のテーマとして、また小学校においては「外国語活動」「総合的な学習の時間」「宗教」等の時間にコスミック教育の理論を適用し実施することが可能だと考える。その中で、上記のような疑問をもち、自ら解決の道を探ろうとする態度へと導き、実行する能力を身につけるための教育法の開発を試みたい。

そこで、宇宙や自然の現象や国際社会の情勢に関心をもち、理性と良心とが調和的に統合した子どもを育てる普遍的なカリキュラムの構築をめざす第1歩として、本稿では、Trudeau の業績及びコスミック教育観に焦点をあてて、コスミック教育の今日的意義と展開の可能性を追究することを目的とする。

1. Sr. Christina Marie Trudeau の業績

イタリアで始まったモンテッソーリ教育が、アメリカで発展し、アメリカ流のモンテッソーリ教育がさらに環太平洋地域へ広がっている。このことに貢献した人物とし

て、また、コスミック教育の研究の第一人者として Trudeau はアメリカで注目されている。加えてアメリカでは、教育システムの異なる日本におけるモンテッソーリ教育の発展の仕方は、とてもユニークな例として興味深く捉えられている。しかしながら、日本のモンテッソーリ教育のひとつの流れを作ったにも関わらず、ヨーロッパ流のモンテッソーリ教育が主流の日本では、彼女に関する研究はほとんどない。そこで、日米両国の資料からの略歴(巻末資料参照)をもとに、彼女の業績について明らかにしたい。

1967年、日本において上智大学を中心としたモンテッソーリ教育リバイバル¹⁰⁾¹¹⁾がおこっている時期に、ノートルダム清心女子大学児童学科の第1回卒業生である近藤清子(奥山清子元本学児童学科教授)は、College of Notre Dame de Namur, Belmont (CA), Montessori Teacher Education Program (米国カリフォルニア州、ベルモントノートルダム大学モンテッソーリ教育プログラム)へ留学し、モンテッソーリ教員免許を取得した。その際のプログラムの指導者の一人が Trudeau であった。Trudeau は近藤の帰国に合わせて来日し、本学及び本学附属幼稚園におけるモンテッソーリ教育の礎を築いた。1971年には Sr. 佐藤良子も同プログラムに留学し、モンテッソーリ教育免許を取得している¹²⁾。

彼女は1970年以来、何度も来日し、モンテッソーリ講習会を北海道から沖縄までの各地で開催している。本学児童学科においては、1974年にモンテッソーリ教育コースを開設し、1997年までコース担当者として本学のモンテッソーリ教員養成に深く関わった。また、本学附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実践のために、「モンテッソーリ子どもの部屋」をラーニングセンターと

した独自のモンテッソーリ教育プログラム作りにも尽力している¹³⁾。

30年に渡って本学のモンテッソーリ教育のために貢献した Trudeau であるが、本国アメリカにおいても多くのモンテッソーリ教育プログラムの開設に寄与している¹⁴⁾。

カリフォルニア州の Early Childhood (幼児教育) から Secondary (中等教育) までの教員免許を取得し、かつ Early Childhood (3-6歳) と Early Elementary (6-9歳) のモンテッソーリ教員免許をもつ Trudeau は、まず、前述の College of Notre Dame de Namur において、1964年に Montessori Summer Course を担当者の一人としてスタートさせた。その2年後の1966年には大学院のカリキュラムの中に Montessori Teacher Education Program を位置づけて開始している。

1969年から1988年までの20年間は American Montessori Society (AMS) の Teacher Education Committee (教員養成委員会) のメンバーとして活躍している。中でも1975年から1977年までの2年間は、AMS の Vice-President for Professional Development (教師教育担当の副会長) としてアメリカモンテッソーリ協会の中核にいた¹⁵⁾。

加えて、1972年にはワシントン州の Seattle University において、1977年にはハワイ州の Chaminade University において、さらに1990年にはフィリピンのセブ島 San Carlos にある Montessori Teacher University において、それぞれ Montessori Teacher Education Program を開設していることから、環太平洋地域におけるモンテッソーリ教育の普及と発展に大きく関わっていると見える¹⁶⁾。

一方、1983年から1984年にかけて、インド及びスリランカを研究旅行しているが、この時、マリア・モンテッソーリの7年間

のインド滞在に関する貴重な資料を発見している。モンテッソーリはインドの東洋思想から影響を受け、コスミック教育を編成したが¹⁷⁾、Trudeau は、それまであまり詳しく知られていなかったインドにおけるモンテッソーリについて明らかにし、それを博士論文としてまとめたのである。1985年にハワイにおいて“Montessori's Years of India”¹⁸⁾のタイトルで出版されたこの論文は、「コスミック教育の形成－インドにおけるモンテッソーリ」¹⁹⁾という日本語訳が1990年に出版されている。

図1は、Trudeau が1970年代に日本各地で行ったモンテッソーリ講習会の写真のうちの1枚である。この時期の日本は、モンテッソーリ園やモンテッソーリ教師養成機関が次々にできた、いわゆるモンテッソーリリバイバルの時期にあたり、多くの熱心な受講者に向けて、日常生活・感覚教育・数教育・言語教育の4領域のモンテッソーリ教具に関するデモンストレーションを実施している²⁰⁾。しかし、インドでのモンテッソーリのコスミック教育に関する研究後の1988年に、日本モンテッソーリ協会（JAM）第21回全国大会の基調講演「進歩・平和・可能性の教育」²¹⁾を行って以来、講演のテーマがすべて「コスミック教育」



写真 / 奥山清子

図1 モンテッソーリ教育講習会の様子
(左から Sr. 渡辺 Sr. Trudeau 奥山)

へと変わっている。その後、Trudeau によるコスミック教育研修会を受講したモンテッソーリ園の教師たちにより、コスミック教育の実践は続けられている²²⁾。

Trudeau は AMS においても、コスミック教育の第一人者として知られており、機関誌である“Montessori Life”の2002年春季号（図2）においては、表紙を飾り、特集記事やインタビューが掲載されている²³⁾。

さて、それではコスミック教育とはどのような教育であろうか。次節では、Trudeau のコスミック教育観について検討したい。

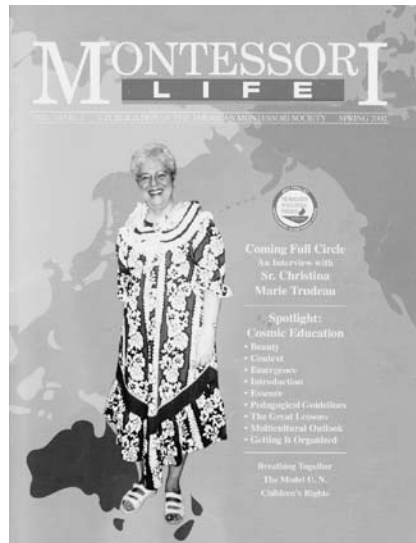


図2 Sr. Trudeau

American Montessori Society “Montessori Life” 14(2), Spring 2002 より

2. Sr. Christina Marie Trudeau のコスミック教育観

コスミック教育は、1939年に国際神智学協会の招きによりインドに到着したモンテッソーリが、第2次世界大戦のために、7年間の滞在を余儀なくされるとともに、モンテッソーリ教具を手に入れることのできなかったことにより、インドの山中の自然物を教材として用いたことに始まる。

戦火を逃れて避難したインドのコダイカ

ナルでは、ヒンズー教、イスラム教、仏教、キリスト教といった様々な文化的な背景をもった、しかも貧富の差の著しい子どもたちが共在する学校での教育が必要となった。国を越え、人種を越え、宗教や貧富の差をも越えて人々が集い、教育が行われる状況が起こったのである。モンテッソーリがそれまで信念とし積み重ねてきた、科学的教育法の効果を、教師たちとともに注意深く観察し評価し確かめるといった6年間の観察の後、7年目に、コダイカナルの自然物を使って「創造のおはなし」を子どもたちに教え、生命の喜びを共に体験するコスミック教育を編成したのである²⁴⁾。

「創造のおはなし」は聖書の創世記に基づいているが、Trudeau は、子どもに宇宙に興味を抱くようにさせるためには、自然の本質を象徴化したもので、一つの哲学的な性質を帯び、受け入れやすい様式にされ、子どもの真理にあった遥かに高遠な観念で始めること、なかでも、聖書や神話等を用いることは識者が勧めることであると述べている²⁵⁾。

さらに、自らがインドを旅してみて、あらゆる生命がその生を謳歌して生きている中で、生命が互いに関連し合っていること、関わり合いなしには生きていけないこと、そしてそれにはバランスが必要なことを実感したことから、生命のための教育・この地球上のありとあらゆる生き物の存在を一つの統合的な観点から眺望するコスミック教育の必要性をモンテッソーリは訴えたのだと思うと述べている²⁶⁾。

Trudeau は、“Montessori's Years in India”「コスミック教育の形成」の中で、「コスミック教育とは何か」「いつ教えるか」「どこで教えるか」「カリキュラムをどう展開するか」の4点についてまとめている²⁷⁾。

(1) コスミック教育とは何か

モンテッソーリは1939年～1946年にわ

たってインドに滞在し、その間に、聖書の主要テーマである創造に焦点をあてたカリキュラムを考え出した。この創造のテーマによって子どもたちは、生命が基本的に必要とするものについて、生命の根源について、生命の発展の全体像、すなわち始めはまったく依存している状態から出発し、そして独立自立し、さらに、独立したものが相互に依存し合うという全過程を学びとるとモンテッソーリは信じていた。想像の学習の中に見出される根源的材料の探究によって、子どもの直観的で好奇心に富んだ心は、自然の不思議の間にある関係に気付き始めると信じていたのである。生命は新しい創造であることを見ることを子どもたちに望み、創造に対する子どもたちの応答が、その創造の個人的側面であり、しかも創造の重要な一部であることを理解するよう望んでいたのである。

(2) いつ教えるか

6歳までに、子どもたちの知覚技能や運動技能が洗練され、そのことにより記憶力や想像力は強くなる。そこで、子どもたちは自分の発見したものを確認し、生命の全体像を組み立てようとする。子どもたちが極めて直観的で、至高の存在に大きな信を置いているこの敏感期において、子どもたちに聖書の創造の物語を教え、生きとし生ける物の広い宇宙的視野を与え、その相互依存性、連続性、不思議さを教えることこそが時宜にかなうことである。

(3) どこで教えるか

自然と生命の不思議は、場所を問わずあらゆるところで教えることができる。植物や小動物を育てて、いろいろとでてくる必要なことをあれこれと考えることが、子どもたちに彼らの環境に対してどのように世話をしたらよいかを訓練する機会を与えるのである。

表1 「創造のおはなし」に基づくコスミック教育の展開例

創造のおはなし	子どもたちの学びのテーマ (例)	テーマへのアプローチ
光	光・エネルギー・太陽・月・惑星・光るもの	地理的側面 歴史的側面 科学的側面 言語・文化的側面 総合的な活動
水	水・空気・海・川・湖	
土	土・ミネラル・岩石・火山・地層・プレート・大陸	
植物	植物の成長・秩序・種を植える時・育つ時・収穫する時・ 植物の種類・部分とその働き	
季節	秩序・天候・地球温暖化	
動物	動物のタイプ・種類・体のしくみ・生息環境・成長・命・ 動物の世話・バラエティー・調和・食物連鎖	

(4)カリキュラムをどう展開するか

モンテッソーリの宇宙意志に基づく教育計画は、環境学習、環境計画を重要視している。生きとし生けるものの相互依存の全体像は広大だが、この生命と自然の相互作用は子どもたちに明らかにされねばならない。そこで、生命の循環における、起源、過程、成長、変化を学習することによって、子どもたちは広大な時間と歴史に対する感覚を吸収する。

「創造のおはなし」をもとにしたコスミック教育のカリキュラムをまとめたものが表1である。このテーマは宗教教育ではなく、生命科学、あるいは環境学習にも留まらないと Trudeau は述べている²⁸⁾。感覚を通して物事を学ぶ6歳まで子どもたちに対し、学童期の子どもたちは、知識を通して、やがては問題を証明することを通して物事を理解し、学んでいく特徴をもっている。このわずかな間に位置する過渡期の子どもたち(年長児)は、あらゆる生き物、動くものに対する興味と好奇心に満ち、自ら環境と関わり、熱中して学習した体験のもとに、直観が作用する特別な時を生きている。意識は外にむけられ、物事の理由を知りたいという強い要求がでてくるこの時期に、生命のための教育・この地球上のありとあらゆる生き物の存在を一つの統合的な観点から眺望するコスミック教育の必要

性がここにあるのである。

Trudeau は、子どもたちとともに生命の輝きや喜びを探し、生命のかかわりを調べようとわたしたち教師に促している。自然は生命について教える教師であり、われわれの教師は子ども自身であり、子どもを無意識のうちに導いている宇宙の法則における生命の衝動である。私たち教師が、この生命の探究と発見に参加することによって、子どもたちは宇宙意志に基づく計画の共同作業者となり、その宇宙的使命を果たすことを学ぶからである²⁹⁾。この過程こそが、Trudeau がインドにおいて発見した「創造のおはなし」を基にしたモンテッソーリのコスミック教育なのである。

インドにおけるコスミック教育の研究後、Trudeau は、南太平洋や、東南アジアなどの発展途上国の人々は、人間の尊厳を取り戻す必要があり、彼らの人間の価値は、その諸能力や諸技能を伸ばすことによって高められるとの考えに至った。モンテッソーリの宇宙観を建設することにより、創造の美しい哲学はあらゆる生命を「新しくする」望みをもたらすと考えたのである³⁰⁾。このコスミック理念に基づく発展途上の国々へのモンテッソーリ教育の普及を彼女は mission であると捉え、その後尽力することになる。Schonleber and Richmond は、Trudeau の環太平洋地域に

おけるコスミック教育理念に基づいたモンテッソーリ教育発展への寄与は大きく、その鍵として教育法が化石化してしまわないように、各々の国や地域の文化的背景に沿った「適応」と「変革」を重視した点を評価している³¹⁾。

さらに、日本におけるモンテッソーリのコスミック教育の普及について Trudeau は、1988年の JAM 第21回全国大会の基調講演において、「日本人は、東洋の文化を理解し、創造の恵みに感謝する心を持ち、子どもを愛する国民です。……祈る心と、純粹な魂と、生命へ仕え、宇宙的使命の呼びかけに応える開かれた心が必要です。創造主は、幼子たちの教育という使命を通して、共に創造する人になるよう私たちに呼び掛けています。」³²⁾と述べて、コスミック教育を促進する教師としての在り方に言及している。

子どもたちの内面からの開花を促すためには、教師自身の研究が必要であるということである。教師が何か一つのことについて興味・関心を持つことにより、よく知るようになる。そして知れば知るほどおもしろくなり、好きになる。さらに図書館(やIT)を利用して勉強することにより、もっといろいろなことが分かる。やがて、人間には生命に対する責任があることがわかるようになり、責任ある人、生命あるものの営みを大切にす人になる。そして「こうした方がもっとよいのではないか」と行動できる人になると、主体的な課題解決型の学びを通した教師自身の変容の大切さを強調している。つまり、教具の扱い方を知るだけではモンテッソーリ教育は完全ではなく、モンテッソーリの精神を理解し、新しい事実に目を開き、取り込んでいく研究心と勇気と努力がこれからのモンテッソーリアンには必要なのである³³⁾。

現在、世界には皆が知恵を出し合い協力

しなければ解決できない問題が山積している。Trudeau が訴えるように、宇宙について知識として知り、それだけでなく、良いものを判断し、選び、美しい地球を守る人として行動できる未来の大人を育てる教師の責任は重い。

3. コスミック教育の今日的意義と展開の可能性

Trudeau は、モンテッソーリ教育が、選ばれたエリートや、中流階級の上層の人々にのみ尽すことへの危惧を抱き、東南アジアやその他の国々への拡張を模索してきた。それは、モンテッソーリが人間の発達の可能性について絶えず疑問を持ち研究を重ねていたように、私たち自身が疑問を持ち、問題意識を持ち、研究しながら生きていくべきことを示唆してもいる³⁴⁾。

その際 Trudeau は、「地域の先駆者と協力すること」「適応と変革」「教師養成プログラム」「インドにおいて発見したコスミックカリキュラム」の4つを大切に³⁵⁾。つまり、子どもの人格を尊重し、可能性を引き出すためのモンテッソーリ教育を様々な国や地域に普及させるにあたり、その土地の人々と協働で行うこと、決して先進国の価値観を強要するのではなく原理を大切にしつつもそれぞれの文化や歴史風土に合った変革を行うこと、子どもの教育のためにはまず教師を育てること、高価なモンテッソーリ教具がなければモンテッソーリ教育ができないと捉えるのではなく、その土地の文化や自然こそを生きた教材として用い独自のコスミックカリキュラムを創造することを主張し、それをまさに実践してきたのである。

この考え方は、国連が奨めている ESD の理念と一致してくるのではないだろうか。

ESD は持続可能な社会づくりのための担い手づくりである。ESD の実施には、「人

格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『関わり』『つながり』を尊重できる個人をはぐくむこと」の2つの観点が必要である³⁶⁾。ESDとは図3³⁷⁾のように、環境教育、国際理解教育、エネルギー教育、人権教育、平和教育等の、持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別分野の取り組みのみならず、様々な分野を多様な方法を用いて繋げ、総合的に取り組むことを重視している。つまり、教育内容の面からまさにコスミック教育と言えるのである。

加えて、ESDで育みたい力として、「体系的な思考力」「持続可能な発展に関する価値観」「代替案の思考力（批判力）」「情報収集・分析能力」「コミュニケーション能力」があげられており、そのための方法として、「関心を持ち、理解し、参加する態度や問題解決能力の育成を通じて具体的な行動に移す」という、単に知識や技能の習得や活用にと留まらず、探究や実践を重視する参加型アプローチを用いる³⁸⁾。教育方法の面からも、子どもの自発的活動の原理を重視するモンテッソーリ教育に通じるのである。

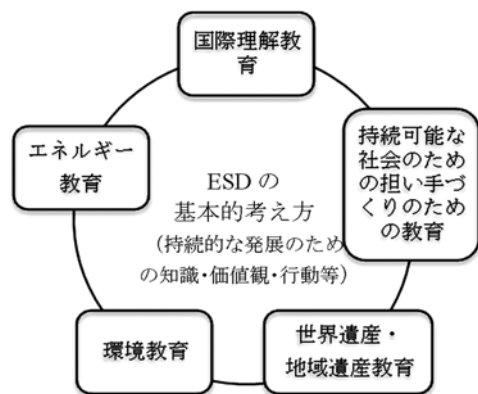


図3 ESDの基本的考え方

日本ユネスコ国内委員会「持続発展教育（ESD：Education for Sustainable Development）」文部科学省HPより引用し一部改変

一方、情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会等を背景に、子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルをみつけにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。そこで、文部科学省は、変化の激しい社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠であり、日常の教育活動を通して、学ぶおもしろさ、学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させることが大切であるとして、キャリア教育を提唱している³⁹⁾。

子どもたちが、未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を体得することで、生涯にわたって学びつづける意欲をもち続ける基盤をつくるための教育である。

キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義される。また、キャリアとは、「個々人が生涯にあたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けの累積」であり、「キャリア発達」とは、「自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程」である⁴⁰⁾。国立教育政策研究所による「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」では、子どもたちが身に付けるべき能力の枠組みとして、「人間関係形成能力（自他の理解能力／コミュニケーション能力）」「情報活用能力（情報収集・探索能力／職業理解能力）」「将来設計能力（役割把握・認識能力／計画実行能力）」「意思決定能力（選択能力／課題解決能力）」の4領域8能力のモ

デルを示している⁴¹⁾。

モンテッソーリ教育においては、子どもたちが自ら選び、主体的に関わり、全身全霊をかけて関わり抜くことから、自らのより高い資質を実現していくサイクルを重視している。その上でコスミック教育のねらいは、子どもたちが、自らの興味・関心をもとに宇宙の全体と部分とその調和について深い知識を得ることにより、宇宙における自らの役割に気づき、自信をもち、自分を愛し、人も愛し、助け合い協力し合って、平和な社会を実現していくことにある。その中で培われる能力こそ、キャリア教育で育みたい力であると考えられる。

モンテッソーリが50年前にその必要性を訴えた、国境のない地球市民として平和に生きるための教育が、まさに今日の日本の教育において、内容の面からも方法の面からも重要視されつつあり、実践されようとしているのである。

おわりに

Trudeau は、インドにおけるモンテッソーリのコスミック教育の形成に関する研究の成果を、モンテッソーリ教具を容易に手に入れることができない環太平洋の地域におけるモンテッソーリ教育の普及へと反映させてきた。それを彼女自らの mission と捉えて果たしてきたのである。そのために、西洋の価値観を押しつけるのではなく、それぞれの地域の指導者と協働すること、教育原理の「適応」と地域に応じた「変革」、教員養成から着手すること、インドで編成されたコスミックカリキュラムを用いて、地域の自然環境とともに地域に根差した文化に焦点を当てることを4つの鍵と考え大切にしてきたのである。また、彼女はこれからのコスミック教育の展開の中で、西洋の文化を理解しつつ東洋の思想をもつ日本の教師たちの役割は大きいことにも言及し

ている。

その上でコスミック教育の展開の可能性を考えた時、モンテッソーリのコスミック教育の理念はESDやキャリア教育の理念と一致し、モンテッソーリ園において、コスミック教育は、特に5歳児のための「協同的な学び」やプロジェクト型の活動として多くの機会を与える。加えてESDやキャリア教育の実践事例もまたモンテッソーリ園におけるコスミック教育の実践に参考になることが明らかである。一方で、コスミック教育の教具・教材や子どもの自発的な活動を通しての学びを重視したモンテッソーリの教育法が、内容と方法の両面においてESDやキャリア教育に適用できることも分かった

今後は、コスミック教育に関する実践例を収集し、宇宙や自然の現象や国際社会の情勢に関心をもち、理性と良心とが調和的に統合した子どもを育てる普遍的なカリキュラムの構築へと繋げていきたい。「コスミック教育とESD」及び「コスミック教育とキャリア教育」に関しては、別稿としてさらに研究を深めていきたい。

付 記

本研究は科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金、挑戦的萌芽研究、平成23～25年度、課題番号23653257「コスミック教育の今日的意義と幼稚園・小学校・家庭及び教員養成機関における展開」）の助成を受けた研究の一部であることを報告申し上げます。

尚、本論文は、日本モンテッソーリ協会（学会）第44回全国大会における自由研究発表「コスミック教育展開の可能性を探る！」をもとに、「Sr. Christina Marie Trudeauのコスミック教育観」に焦点をあてて加筆・修正したものです。

謝 辞

モンテッソーリ教育における「コスミック教育」の重要性とすばらしい可能性に気づかせてくださり、本研究に関しまして、専門的かつ温かいご助言を賜っております元ノートルダム清心女子大学教授奥山清子先生に、心よりお礼申し上げます。

文 献

- 1) Association Montessori International-USA < <http://amiusa.org/> > (2011.8.1)
- 2) 日本モンテッソーリ協会 (学会) : モンテッソーリ教育, 40, 2007.
- 3) 前之園幸一郎 : コスミック教育, クラウス・ルーメル (監修) モンテッソーリ教育用語事典, 学苑社, 2006, pp.91-94.
- 4) C. M. Trudeau 三宅将之 (訳) : コスミック教育の形成－インドにおけるモンテッソーリ－, エンデルレ書店, 1990, pp.109-118.
- 5) 福原史子・奥山清子 : ノートルダム清心女子大学のモンテッソーリ教育に関する研究 (I), ノートルダム清心女子大学紀要, 32 (1), 79-93, 2008.
- 6) N. Schonleber, J. Richmond & L. Bogart : The American Montessori Model – Considerations of Culture and Innovation, Handout, 50th Convention of the American Montessori Society, 2010.
- 7) 岡山 ESD 推進協議会 : 岡山 ESD プロジェクト, 広報パンフレット, 2009.
- 8) M. Montessori 吉本二郎・林信二郎 (訳) : モンテッソーリ教育・六歳～十二歳まで, あすなろ書房, p.22, 1997.
- 9) 文部科学省・国立教育政策研究所 : キャリア教育推進の手引き－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－, 2006.
<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/_icsFiles/afieldfile/2010/03/18/1251171_001.pdf> (2011.8.1)
- 10) 吉岡剛 : モンテッソーリ法をめぐる賛否意見の検討－わが国の場合－, 姫路短期大学研究報告, 21, 122-131, 1976.
- 11) M. Pines : Revolution in Learning – The Years from Birth to Six, Harper & Row Publishers, New York and Evanston, 1966.
- 12) 福原史子・奥山清子 : 前掲書 (5), pp.79-93.
- 13) 同上書, pp.79-93.
- 14) L. Bogart : Coming Full Circle – An Interview with Sr. Christina Trudeau, Montessori Life, 14 (2), 30-32, Spring, 2002.
- 15) 同上書, 30-32.
- 16) 同上書, 30-32.
- 17) C. M. Trudeau : 前掲書 (4), p.91.
- 18) C. M. Trudeau : Montessori Years in India, Montessori Association of Hawaii & American Montessori Society, Hawaii Printing Corporation, 1984.
- 19) C. M. Trudeau 三宅将之 (訳) : コスミック教育の形成－インドにおけるモンテッソーリ－, エンデルレ書店, 1990.
- 20) 福原史子・奥山清子 : 前掲書 (5), 79-93.
- 21) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : モンテッソーリ教育における進歩・平和・人間の可能性, 日本モンテッソーリ協会 (学会), モンテッソーリ教育, 21, 2-9, 1988.
- 22) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : わたしたちをとりまく生命のイメージ,

- 日本モンテッソーリ協会 (学会), モンテッソーリ教育, 25, 80-89, 1992.
- 23) American Montessori Society : Montessori Life, 14 (2), Spring 2002.
- 24) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : 前掲書 (22), 80-89.
- 25) 同上書, 80-89.
- 26) 同上書, 80-89.
- 27) C. M. Trudeau 三宅将之 (訳) : 前掲書 (19), p.7-9.
- 28) 同上書, p.7.
- 29) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : 前掲書 (22), 80-89.
- 30) 同上書, 80-89.
- 31) N. Schonleber, J. Richmond & L. Bogart : 前掲書 (6)
- 32) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : 前掲書 (21), 2-9.
- 33) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : 想像力によるコスミック教育, 日本モンテッソーリ協会 (学会), モンテッソーリ教育, 27, 61-69, 1994.
- 34) C. M. Trudeau 奥山清子 (訳) : 前掲書 (21), 2-9.
- 35) N. Schonleber, J. Richmond & L. Bogart : 前掲書 (6)
- 36) 日本ユネスコ国内委員会 : 持続発展教育 (ESD : Education for Sustainable Development) <<http://www.mext.go.jp/unesco/004/004.htm>> (2011.8.1)
- 37) 同上書
- 38) 同上書
- 39) 文部科学省 : 【PDF】 キャリア教育とは何か 第 1 章 <www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/05/19/1293928_03.pdf> (2011.9.30)
- 40) 文部科学省・国立教育政策研究所 : 前掲書 (9)
- 41) 同上書

資料 Sr. Christina Marie Trudeau の略歴

年	Sr. Christina Marie Trudeau の略歴
1959	BA Philosophy [学士(哲学)] 取得
1963-64	Belmont(CA)において Montessori lab school 設立
1964	College of Notre Dame de Namur, Belmont (CA)において Montessori Summer Course を開始
1966	College of Notre Dame de Namur, Belmont (CA)において Montessori Teacher Education Program を開始
1967	M. Ed [修士(教育学)] を取得 *近藤清子(奥山元児童学科教授)の College of Notre Dame de Namur, Belmont (CA) Montessori Teacher Education Program への留学受け入れ
1969	AMS (American Montessori Society) Teacher Education Committee のメンバー (1988 年まで)
1970	*近藤清子(奥山元児童学科教授)がモンテッソーリ教員免許を取得し日本へ帰国 岡山・札幌・広島においてモンテッソーリ講習会を開催、以後 1976 年まで日本において毎年講習会を開催
1970-71	National Association for the Education of Young Children (NAEYC) の会計を担当
1971	日本から米国へのモンテッソーリツアーを実施(日本からの参加者 35 名)
1972	Seattle University (WA) Montessori Teacher Education Program を開始
1974	ノートルダム清心女子大学において「モンテッソーリ教育コース」を開始 Chaminade University of Honolulu (HI)において Summer Work Shop を開催 (~1976)
1975-77	AMS Board's Vice-President for Professional Development を務める
1977	Chaminade University of Honolulu (HI)において Montessori Teacher Education Program (AMS) を開始し、Program Director (~1986) を務める
1983-84	インド・スリランカを研究旅行 インドにおけるモンテッソーリの貴重な資料を発見
1984	EdD [教育学博士] 取得
1985	博士論文 “Montessori's Years of India” 出版
1988	日本モンテッソーリ協会 (JAM) 第 21 回全国大会において基調講演「進歩・平和・可能性の教育」
1990	JAM 第 23 回全国大会における経験者コース・アセンブリにて講演「モンテッソーリによる宇宙観」
1990	「コスミック教育の形成ーインドにおけるモンテッソーリ」(博士論文の日本語版) を出版 Montessori Teacher University, San Carlos / Cebu (Philippines) において Montessori Teacher Education Program を開始
1991	JAM 中国支部研修会: モンテッソーリ宇宙教育研究シリーズ「新しい驚きの世界をつくる子どもたち」を開催、以後 1997 年まで毎年中国支部コスミック教育研修会を開催
1992	JAM 第 25 回全国大会における基本コースにて講演「わたくしたちをとりまく生命のイメージ」
1997	JAM 第 27 回全国大会において講演「コスミック教育」